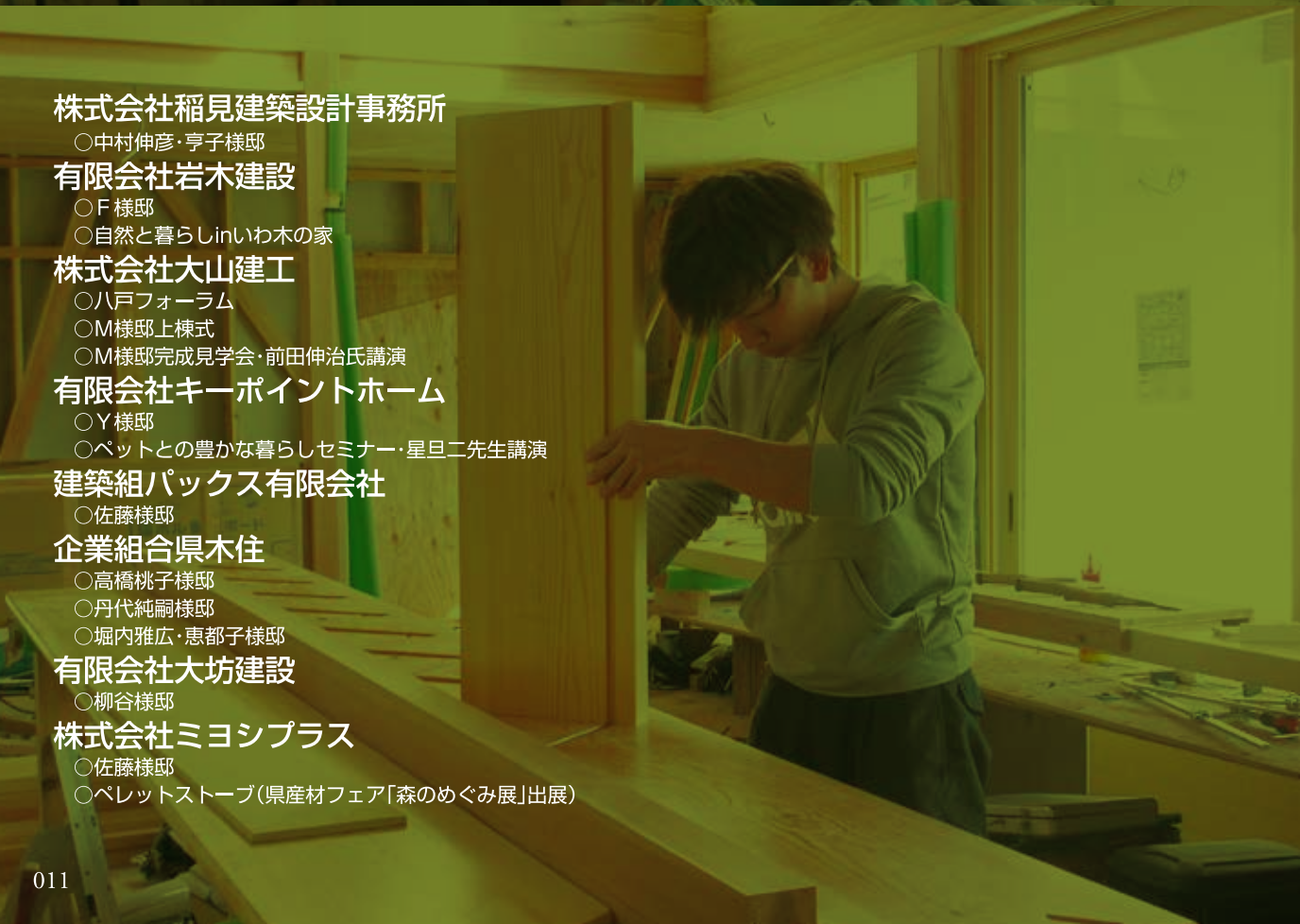
地産地消の家づくりに取り組む 大工・工務店 設計事務所



株式会社稲見建築設計事務所
- ○中村伸彦・亨子様邸

有限会社岩木建設
- ○Ｆ様邸
- ○自然と暮らしinいわ木の家

株式会社大山建工
- ○八戸フォーラム
- ○M様邸上棟式
- ○M様邸完成見学会・前田伸治氏講演

有限会社キーポイントホーム
- ○Ｙ様邸
- ○ペットとの豊かな暮らしセミナー・星旦二先生講演

建築組パックス有限会社
- ○佐藤様邸

企業組合県木住
- ○高橋桃子様邸
- ○丹代純嗣様邸
- ○堀内雅広・恵都子様邸

有限会社大坊建設
- ○柳谷様邸

株式会社ミヨシプラス
- ○佐藤様邸
- ○ペレットストーブ（県産材フェア「森のめぐみ展」出展）

株式会社 稲見建築設計事務所

新しい〝農家スタイル〟 LDKが土間の斬新さ

カーナビの案内で雪道を右に曲がり左に曲がりしているうち、視界から消えた岩木山がまた現れるたびに大きくなって間近に近づいてきた。岩木山の裾野に当たる弘前市弥生地区。それが目印になる道端のカエデの大樹の脇に、板張りの平屋が建っていた。㈱稲見建築設計事務所が新しい〝農家の生活スタイル〟として設計した中村様邸だ。東京から移住してきたご夫婦がここに居を構え、その背後に広がる1ha(約3025坪)の所有地をリンゴ園にして、収穫したリンゴでシードル(リンゴ酒)を製造する――薪ストーブが燃える土間リビングで人生設計を伺った。

ユーザー訪問

中村伸彦・亨子 様邸

DATA

弘前市弥生　2018年9月竣工
■床面積／平屋建て24.04坪(79.49㎡)
■使用青森県産材／ヒバ(土台)、スギ(外壁、床、柱、梁)。

大きな窓からすぐ目の前に岩木山が見えている。その手前、雪から突き出た細いポールが何本も立ち並ぶ根元に、リンゴの苗木が植えてあるという。フジ、コウギョク、シナノゴールドなど約40本。それを500本まで増やし、そこからがシードル製造のスタートなのだそうだ。津軽富士の裾野で、苗木と共にご夫婦の計画も育っていく。

――LDKを土間にしたのはご夫婦の要望だったのですか？

ご主人の話　稲見さんと打ち合わせをしているうちに、だんだんとそういうことになったんです。初めは玄関から入ってきて、薪ストーブを置くところまで土間にしようかとか、リビングまで土間を広げて、キッチンは床を張って上がるようにしようかとか、何パターンも検討しました。

奥様の話　農作業の服装のまま家に入れるようにしたい、というところから〝土間〟がいいとなったんです。汚れた服も長靴

屋内の暖房を一手に担う薪ストーブ。薪はリンゴの剪定枝

もいちいち脱がなくてもいいし、作業の合間のお茶飲みのときもそのままで入れますしね。それと、このへんにはコンビニも飲食店もないので、近隣のリンゴ農家の方々が気軽に入って食事をしたり談話したりする場としても解放したい思いもあるんです。じゃ、喫茶店みたいに、いっそ全部土間にしたら、というところに落ち着きました。

稲見公介氏の話　ＬＤＫを土間にしたのはもう一つの狙いがあったんです。暖房効率です。土間が大きな蓄熱体として薪ストーブの熱を蓄え、消したあとも土間からの放熱で暖かさが保てるのです。リビングと寝室の仕切りの壁の上部を開放させたのも、薪ストーブ1台で暖房を賄うためです。中村様邸は、屋根に太陽光発電を搭載すれば「ゼッチ」（ＺＥＴ＝ゼロエネルギーハウス）になる高断熱・高気密の高性能住宅で、窓から射し込む太陽光の熱も逃さず貯め込んで暖房効率を高めています。薪はリンゴの剪定

土間の中に設けられた対面式のキッチン

斬新なセンスが光るLDKの土間。薪ストーブを消したあとも土間からの放熱で暖かさが保てる

LDKの大きな窓からは広大なリンゴ園が望める

枝ですから、二酸化酸素の排出抑止にも貢献しています。

奥様の話　朝起きた時点でリビングが18℃以下になっていたことはありません。土間の蓄熱と、高断熱の相乗効果ですね。

リンゴが人生の橋渡し シードル製造を目指す

――ご主人は三沢市のご出身で、奥様は大阪とのことですが、出会いは東京でしょうか？

奥様の話　そうです。主人が三沢出身だから郷里に戻ってきた、というわけではなく、移住の〝橋渡し〟をしてくれたのは「リンゴ」でした。

ご主人の話　私の両親が毎年お歳暮代わりにリンゴを東京に送ってよこしてくれました。両親は、青森県の魅力を発信することに熱心でして、弘前の「Tファーム」からコンテナでリンゴを買って、それを箱詰めして、身内や友だちや知り合いなど36人にも発送するんです。Tファームが、リンゴの果汁からお酒をつくりたい、つまり「シー

暖房が行き渡るよう寝室（手前）とリビングの壁の上部を開放

寝室の右の出入口からも玄関に出られる回遊動線

ドローンで撮影した敷地の写真。中央下の赤い屋根が購入時に建っていた前所有者の小屋。
そこを取り巻く黄緑色の部分が中村様の土地1ha

ドル」ですね、その醸造の担当者を探している――という話を親から聞きました。ちょうどその頃、醸造の仕事をしてみたいと思っていたところだったので、話だけでも聞いてみようと弘前に行ってみたんです。それが4年前の2014年でした。

奥様の話　転職が目的じゃなく、ゆくゆくシードルを製造するための移住でしたから、徐々に土地探しを始めました。リンゴ園にする広さがあることと、そこに家が建てられる条件を満たすこと。あちこち探しましたよ。決め手は、岩木山のふもとにリンゴ畑が広がるロケーションの良さで、ここを選びました。

ご主人の話　土地と並行して工務店探しも進めていました。最初に見学に訪れたのは青森市の野内というところに完成した住宅でした。そこで初めて稲見さんとお会いしたんです。

奥様の話　稲見さんの見学会を知ったのはネットでした。暮らしていたアパートが寒かったものだから、〝あったかい家〟と打ち込んで検索したら、「野内で完成見学会」という広告が目に付いたんです。わたしも一緒に行く予定でしたけど、仕事で行けなくなって。

ご主人の話　振り返ってみれば、この見学会で直接稲見さんとお話しできたことが大きかったですね。私は、太陽光発電を利用した「ゼッチ」とか、断熱とかの住宅性能に関心があって、建築士の稲見さんにあれこれ質問をしました。2時間も。そのときの、稲見さんの的確な応え方が印象に残っています。理路整然としていて、一つ一つ腑に落ちました。家は「箱」ではなく、生涯暮らす「住まい」なのだから、〝性能〟が伴っていなければ快適ではないはず。そんな思いを、その後も稲見さんの見学会に訪れては1時間以上も話し合ったものです。

――LDKの土間にはもう慣れましたか？

奥様の話　靴を脱がないで家に入るって、気楽でいいですよ。敷居をまたがないで、スッと中に入れる感じ。カウンターに座っているとお店にでもいるみたいにくつろげます。ご近所の方々も気さくでいい人ばかりで、家にも、環境にも恵まれました。

Architecture Design Office INAMI

株式会社 稲見建築設計事務所
青森市佃1-5-7
TEL.017-742-2636 FAX.017-742-2637
http://www.a173.org
E-mail : staff@a173.org

有限会社 岩木建設

外気温より6℃も低い エアコン要らずの効果

八戸市の気温がこの夏最高の33・6℃を記録したその日（2018年7月30日）、午後1時からの取材まで近くのホームセンターの駐車場で待機していた。木陰もなく日陰もなく、炎天にさらされた車のクーラーをマックスにしても吹き付ける風は生ぬるかった。外気の気温より車内は数度高かったのではないか。ついに堪えきれず逃げ込むようにF様邸のインターホンを押した。奥様が迎え入れてくれた玄関内の救われるような涼しさ。リビングもひんやりとしていて、生き返る心地だったが、エアコンをつけていない、と聞いてびっくり。思わず――天国だぁ！

ユーザー訪問

F様邸

DATA

八戸市北白山台　2018年5月竣工
■延べ床面積／60.11坪（198.74㎡）
■使用青森県産材／ヒバ（土台、洗面・トイレ内壁・天井）、スギ（床、柱、梁、内壁、天井）。

――今、リビングの室温は何度ありますか。

ご主人の話　（温度計を見て）27℃です。今日は猛暑ですからいくぶん高めですね。いつもはだいたい25℃くらいです。

――エアコンをつけず、ソーラーサーキットを運転するだ

真夏でもエアコンが必要ないほど涼しいというリビング

キッチンの脇、カウンターを付けた内壁のステンドグラスがしゃれている

キッチンに立つと真正面に薪ストーブを置いたリビング全体が見渡せる

けでこの涼しさというのは、驚きの効果ですね。

ご主人の話　ほんとうに、そうです。岩木さん(岩木勝志社長)から、ソーラーサーキットだけで充分涼しいから、エアコンは必要ありませんと言われていたんですよ。それでも、南側の窓から陽が射し込むのでそこの壁にだけは念のため付けてもらいました。でも、運転しなくてもぜんぜん平気です。自分の家ながら、すごいなって感心していますよ。

岩木社長の話　ソーラーサーキットは、外壁に設けた通気層の中を、空気が流れることによって熱を排除する工法で、計画換気システムと連動して室内の湿気も取り除きます。当社が使用する柱は一般の3寸5分より太い4寸(約12㎝)角で、その外側にさらに厚さが75㎜の外断熱用のウレタンボードを張って通気層を作るので、壁全体で24㎝にもなります。この分厚い壁が、建物の断熱性をより高めているのです。

ご主人の話　(リビングの東側の窓を向いて)この窓で、壁の厚さが分かるんですよね。

岩木社長の話　そうです。出

“出窓”(写真右側)のように見えるのは、実は外壁の厚さ。それだけソーラーサーキット工法の通気層には幅がある

大きな開口部から光が射し込む開放的なリビング

窓のように見えるけど、出窓じゃないんです。窓の下の棚になっている出幅が壁の厚さということです。

——展示場を見学したことが岩木建設に頼むきっかけになったということですが、見学したのは6、7年も前だったとか。

奥様の話　そうなんです。あのときは建てる計画はぜんぜんなかったんですよ。ここ（現在地）とは別の場所に自宅がありましたからね。でも、「木の家」には憧れがあったんですよ。いつか住んでみたいなって。それで、見させてもらおうとね。

柔らかな無垢材の感触裸足になり触れてみた

——岩木建設の展示場のことは何で知りましたか。新聞広告とか、チラシですか。

奥様の話　たぶん、国道を走っていたときに展示場の看板が目に付いたんじゃなかったで

「いわ木の家」の標準的仕様となっているヒバを張った見た目も香りも清々しい水回り

しようか。

ご主人の話　いやいや。展示場があるのは十和田市の国道4号沿いだよね。あそこを通ることはまずないな。チラシだったか新聞の広告だったか、十和田に〝木をいっぱい使って建てた〟展示場ができたと知って、見に行ったはずだよ。

――とすると、展示場が〝呼んだ〟ということでは。

ご主人の話　そうかもしれませんね。

奥様の話　初めから縁があったということなんでしょうね。

ご主人の話　建てないのに見学するのはなんとなく気が引けましたけど、築20年になる自宅もいずれは建て替えるときがくるでしょうから、後学のためにと思ってね。あのとき応対してくれたのが、専務（岩木専務）さんでした。結論から言うと、専務さんだったから、岩木建設にお願いすることに繋がったんですよ。建てるわけじゃないけど、とお断りはしたんですが、それでも、専務さんは、ええ、どうぞどうぞ、ってニコニコしてね、じっくりご覧くださいって。そう言われて、こっちも気が楽になりましたよ。

玄関から上がってまず気が付いたのは、床の板です。足触りですね。柔らかい。専務さんによると、そのなんともいえない柔らかさ、温かさが無垢材の特徴なんだそうです。自宅は合板フロアだったから、堅くて、冬は冷たくてね。「靴下脱いでもいいですか」って了解を得て、裸足になりました。あのときの心地よさを、まだ足裏が憶えていますよ。

十和田石の不思議な力 金魚も鉢植えも元気に

――自宅がある土地に建て替える計画はなかったのですか。

ご主人の話　ほんとうは最初、そこの土地だけ欲しかったんですよ。でも、家とセットでなきゃ売らないと言うので建てた

木に囲まれた２階の洋室。右側の扉越しに吹き抜けのステンドグラスが見える

夏が涼しいのは「木」の力も貢献している。逆に冬は暖かい

リビング上部の吹き抜けの壁面にはめ込まれたステンドグラス

木のぬくもりに包まれ、落ち着いたたたずまいを見せる2階の廊下。家の中のどの空間も木に囲まれている

んですが、それが満足のいく家じゃなかったんです。夏、暑くてね。20年前だから今ほど断熱の技術が進んでいなかったんでしょうけど、それにしても暑くて暑くて……。私のそんな積もる不満話を、専務さんが頷きながら聞いてくれましてね。建てる計画はない、とお断りしているのに、ですよ。あのときの専務さんの好印象で岩木建設に決めたんです。

——展示場と同じに、玄関にも、リビングの薪ストーブの背後にも十和田石を張っていますね。

奥様の話　岩木建設の見学会のときに、専務さんから十和田石を頂戴したんです。コースターでした。それを、豆から挽いて淹れたコーヒーカップの下に敷くと、まろやかな味になるんだそうです。内心、半信半疑でしたけど、ほんとうでした。コースターを敷いたのと、敷かないのとの味比べをしてみたら、はっきり分かるくらいに違いましたね。

岩木社長の話　十和田石って、不思議な力のある石なんです。元気のない鉢植えをその上に置いておくと、葉っぱがピンとなるんです。金魚もそうです。十和田石で作った金魚鉢に弱った金魚を入れておいたら、くねくねと元気になったんです。神秘な力って、あるもんですよ。

——現在地はどのようにして見つけられたのですか。

ご主人の話　さっきお話しした自宅のある土地は、ここの半分しかなく、そこに建て替えるとしても以前と同じような大きさの家しか建ちません。それで、車を走らせてはもっと広い土地をと探していたら、ここに売地の看板が出ていたんです。土地も倍ほどの広さで、これな

ら要望する部屋数が取れます。土地を買ったのが２０１７年の春でした。買ってすぐに岩木さんに依頼しました。建ててくださいって。

奥様の話　岩木建設以外にも、見学会は見て回っていたんですよ。フリーペーパーっていう戸別配達の情報紙がありますでしょ、それ見て、良さそうだなと思う家は見学に行きました。けっこうあちこち見ましたけど、いちばん最初に見学した岩木建設の展示場の、あの玄関先まで漂っていた木の匂いが忘れられませんでしたね。リビングの床はカラマツ。柱はクリで、和室の床はカバザクラ。洗面所に張ったヒバのあの清々しい香り。全部青森県産の木で、12種類も使っているのだとか。この地域に家を建てるお客様に支えられて地元の工務店はあるわけですから、木だって県産材を使わなくちゃ、という専務さんのこだわり……。第一印象が強烈でしたね。専務さんが、「うちは、いい家建てるよ」って。自信ですね。その通りに、猛暑でも別天地の快適な家を建てていただきました。

天井まで突き抜ける薪ストーブの煙突が吹き抜けのアクセントに

岩木専務からのメッセージ

藤田様ご家族はとても仲がよく、特にご主人様が奥様を大切にする姿がとても印象的です。ふわりとしたやさしい奥様。素敵なご夫婦です。どうぞいつまでもお幸せに暮らしてほしいと願っております。

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

有限会社 岩木建設

いわ木の家モデルハウス

「木」のオモチャに触れると子供は自然と笑顔になる。木製の馬や犬にまたがる子供たちの無垢な笑み。木の心地よい柔らかな温もりを伝える上で、子供たちの笑顔に勝る表現はない。子供だけでなく、カナヅチを手に箱や本立ての木工体験に取り組む大人たちの表情も楽しそう。木は人の心を和ませる――そんな「木」の持つ魅力に触れてもらおうと、㈲岩木建設は2018年9月2日、みんなで楽しめる体験型イベント『自然と暮らしｉｎいわ木の家』を開催した。会場のモデルハウスに着くと、オープンの9時を過ぎてまだ間もないのに駐車場はすでに満車であった。

みんなで楽しめる体験型イベント

自然と暮らしinいわ木の家 木に触れるといいことあるかも?

「木」に触れてみよう! 柔らかな温もり再発見

「いらっしゃいませ!」

モデルハウス前に設けられた受付で岩木専務が迎えてくれた。開始早々満車という上々の滑り出しに専務の笑顔もいちだんと輝く。

木に触れてみよう! をテーマとした今回のイベントは、モデルハウスの「内」と「外」で開かれた。

「内」では、ヒバやスギ、カラマツなど青森県産材を使って建てた「木の家」の見学がメイン。無垢材の柔らかな足触りや、樹種が違う木肌の色合いが調和した空間の温もりを体感してもらおう、という趣向だ。

製作した小箱や本立てはお持ち帰り

室内で同時開催の、暮らしに彩りを添える「押し花&植彩画」や「パッチワーク」「デコパージュ」「手作りシンプルコスメ」(せっけん)では製作体験もでき、「おもてなしコーヒー」では淹れ立てのコーヒーが味わえる。

それぞれの教室の主催者は、岩木建設の協力によりこのモデルハウスで定期的にワークショップを開いている〝地元発

「木」のオモチャに触れて子供たちの笑顔が広がる

信〟に熱心な仲間たちである。

一方、「外」では、小物入れの箱や本立てを手作りする木工体験がメイン。受付の奥に張られたテントへ向かった。そこで行われていたのが「DIY講座」。女性がカナヅチを手に、引き出しの形をした木の箱に釘を打ち付けていた。そばから手を添えてサポートする大工が、「うまい、うまい」と励ましの声をかける。

女性の隣では、小学校低学年らしい女の子が本立てづくりに挑戦中。電動ドライバーでビス留めをする手元に、父親らしい男性が真剣な眼差しを向けている。その背後で岩木勝志社長が遠巻きに作業全体を見守っていた。

「これ、ください」と、女性がテーブルの上の小物入れの箱を指さした。「いくらですか？」と。その箱は、完成品の見本なのだった。大工が、「キットになっていますので、自分で組み立ててください」と説明。要は、木に触れながら木工を〝体験〟してもらうことが趣旨で、製作した小箱や本立ては頂戴できる――。「それが『木に触れるといいことあるかも?』の『いいこ

「DIY講座」でカナヅチで木の箱に釘を打ち付ける女性

本立てづくりに挑戦中の女の子

12種類の青森県産材が使われているモデルハウス

と』なんですよ」と岩木社長。

隣接する作業場の内から、子供たちの笑い声が聞こえてくる。木のおもちゃのコーナーだった。日頃はモデルハウス内の2階の子供部屋に置いてあるのを、思いっ切り触れて遊んでもらおうと広い場所に解放したのだ。馬や犬にまたがった子供たちの、湧き出るような笑み。いつもの遊びではお目にかかれない、無邪気な笑顔だ。

モデルハウスが完成したのは2010年。岩木建設ではその翌年から恒例行事として『展示場感謝祭』を行ってきたが、今回、イベントのタイトルを『自然と暮らし in いわ木の家』と変えたねらいについて岩木社長はこう話す。

「もともと青森県産材の住宅建築を促す補助金を活用して建てた長期優良住宅が、この展示場なのです。柔らかく温かな健康にいい無垢材を使い、家も、そこに暮らす人も〝楽しく長生き〟できるように――。これまで見学された多くの方々が口をそろえて言われるのは、『玄関に入ったときに木の香りがした』『床板の足触りが柔らかかった』です。つまりそれが木の家が安らぐ〝原点〟なのですね。そこに立ち返って、木に触れてみよう！　と呼びかけることにしたのです。年に一度ここに来れば〝木に触れられる〟――そんな場にしていきたい」

ジャンケン大会でふくろうをゲットして喜ぶ参加者

「DIY講座」で製作した作品を手に笑顔

来場者に感謝のタオル これどうぞと「木もち」

岩木建設では、モデルハウスを、地元の小学生の「体験学習」の場としても提供している。リビングに勢ぞろいした小学生たちに向かい、岩木社長が述べた言葉が思い浮かぶ。

「この展示場に使っている木は全部青森県の木です。地元の山にはこれほどたくさんの樹木が育っているのです。柔らかくて温かいスギ、堅いカバザクラ、腐りにくいヒバ、というように1本1本みな違います。1人1人の性格が違うのと同じことですね。それぞれ違う特徴を生かしながら組み合わせてつくるのが家で、人間社会もそれと同じなのです」

キラキラと輝いた目で聞いていた小学生たちの中から、いずれ大工を志す子が育ってほしい――という願いを岩木社長は込めたのだ。

いきなりエンジン音が起った。敷地内の中央で、ヘルメットをかぶった男性がチェーンソーのエンジンをかけたのだった。立てた丸太にチェーンソーのバー（刃）が食い込む。チェーンソーアートだ。

削られた表面にフクロウが現れてきた。真ん中の縦の線で切り離したら、2羽のフクロウが完成した。初めから背中合わせにして2羽を同時に彫るという熟練の技であったのだ。ヘルメットを外した男性は、Sさんだった。

「では、これからじゃんけんを行いまーす。勝った人に、このフクロウを差しあげまーす」

昔懐かしいピストル型のチョキを突き出す岩木社長

希望者と岩木社長とのじゃんけん大会。最初はグー。じゃんけんぽん！「おおー、出ましたっ、昔の懐かしい、チョキ！」とSさん。見ると、岩木社長が笑いながら突き上げている右手の指が、人差し指と中指のV形ではなく、親指と人差し指の、ピストルの形であった。童心に返ったような岩木社長の笑顔をパチリ。

「ありがとうございました」

岩木専務が帰るお客様に、「これ、ほんの……」と粗品を差し出す。受け取ったタオル入りのビニール袋を見て、あらぁ、と顔がほころぶ。『木もち　です』と書かれてあった。

『木もち　です』と書かれた来場記念の粗品のタオル

モデルハウス内で同時開催された教室・作品展・ワークショップ

押し花＆植彩画の教室・作品展

デコパージュ（紙に描かれた絵を切り抜き木やプラスチックなどに貼り付ける手芸の一種）ワークショップ

パッチワークの教室・作品展

おもてなしコーヒー(コーヒーを楽しむ教室)

手作りシンプルコスメ（十和田市生まれの「雪の泡せっけん」）ワークショップ

いわ木の家

有限会社 岩木建設

十和田市大字洞内字井戸頭175-1
TEL.0176-27-2906 FAX.0176-27-3259
E-mail:iwaki@sea.plala.or.jp

国道4号線沿いに立つ長期優良住宅展示場「いわ木の家」案内板